

令和3年度 日本赤十字広島看護大学国際交流委員会主催特別講演会

あつまれ 未来の国際救援仲間たち！

日 時：令和3年11月30日 13:30～14:30

場 所：日本赤十字広島看護大学 講堂（ソフィアホール）

講演者：大森赤十字病院 看護師 木村仁美氏

1 はじめに（自己紹介・大学在学中について）

私は本学を2009年に卒業し、その後看護師として病院の一般病棟やICU、テーマパークの救護室で勤務しました。そして2016年から、東京都の大森赤十字病院のICUで勤務をしています。本院は国際救援非拠点病院で、私が入職した時点では国際救援要員は一人もいませんでした。私は2019年10月から2020年3月までバングラデシュ南部避難民支援事業に保健要員として従事しました。

私自身、大学に入学した頃はあまり国際活動についてよくわかっていませんでした。大学4年生のときに国際看護学の授業を受講し、中でも先進医療に興味があったのでアメリカに行きました。コロラド大学看護学部の学生と交流した際に、卒業後はどうするの？どんな看護師になりたいの？大学院はどうするの？と聞かれました。その時私自身は国家試験を突破するばかりを考えていて、その先のことまで考えておらずとても驚きました。国が違うと同じ看護師を目指す者でも、考え方が違うのかと感じ、彼女と話すうちに、もっといろいろなことを知りたいと感じ、国際的に視野を広げるきっかけになりました。そして私は、赤十字の一員として国際看護を学び続け、あらゆる世界に目を向け、成長し続けられる人になっていきたい、という考えを持って大学から臨床に飛び出していきました。

2 卒業後から国際要員になるまで

国際要員として登録されるためには、決められた研修を受講します。まずはe-learningで赤十字運動や原則、安全管理について全て英語で学び、最後にテストを受けます。そのテストに合格し、必要な英語条件（TOEIC 730点以上）を満たすと研修を受けることとなります。この研修の修了をもって晴れ



国際要員って？

- ・ 日赤では、国際救援・開発協力に従事するスタッフのことを「国際救援・開発協力要員」（国際要員）と呼ぶ
- ・ 医師、看護師、助産師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、臨床検査技師、事務管理要員など、多岐にわたる人材を対象として実施される研修を修了することで、国際要員として登録される
- ・ 活動内容は、国際的な規模の自然災害やパンデミック等の被災者、また難民や紛争地の犠牲者などに対する医療支援をはじめ、コミュニティに対する衛生知識の普及や防災能力の向上など

1

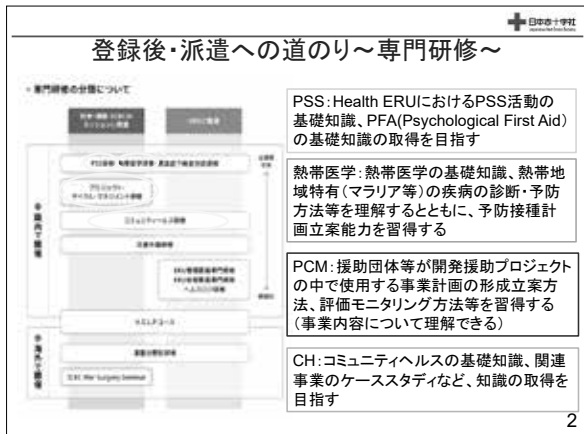
て国際要員として登録されます。

登録前に、私は大阪赤十字病院が主催している復興開発支援の体験ができる海外スタディツアーに参加しました。このツアーでは、フィリピン・セブ島の台風復興支援事業を通して保健要員の業務を理解し、実際にローカルコミュニティを歩いてハザードマップの作成を通して、コミュニティヘルスについての理解を深めました。

緊急救援の方で言いますと、大阪赤十字病院が主催しているERU体験ツアーというものがあります。このツアーでは診療所テントの設営をし、レイアウトを考えたり、現地での調査や会議の体験をしたりします。

次に要員として登録されてからの話となります。派遣までの間にはいくつかの専門研修を受講します。私はこの中の4つを受講し、これらの研修を受講しながら派遣へのスタンバイをしました。

また国際要員としてどんなキャリアが必要かという質問がありましたが、どのような事業に携わるかにもよるので、一概には言えません。専門性であれば、例えば、母子保健であれば助産分野、紛争地域



での医療支援であれば手術室経験、現在行っている中東の病院支援であれば救急外来や感染管理が求められているのではないのでしょうか。基本的には病院で取得できる、実践者ラダーⅢ、国際ラダーⅠを目指すと思います。看護以外で言えば、エクセルといったツールを使うスキルですか、日本語でも英語でもビジネスメールや企画書・報告書が作成できるように今のうちから慣れておいた方が良いでしょう。また、今からでも勉強できることや、参加できるものについては日赤本社 Web サイトのみならず、国際救援拠点病院が発信している情報が SNS でも多くありますので参考にしてください。

キャリアや海外での経験というのは赤十字以外にもできることはたくさんあります。国際要員になるまでに、私はワーキングホリデーで行ったオーストラリアでアシスタントナースとして勤務したり、NGO で海外に医療ボランティアとして行ったりもしました。

3 派遣活動の実際

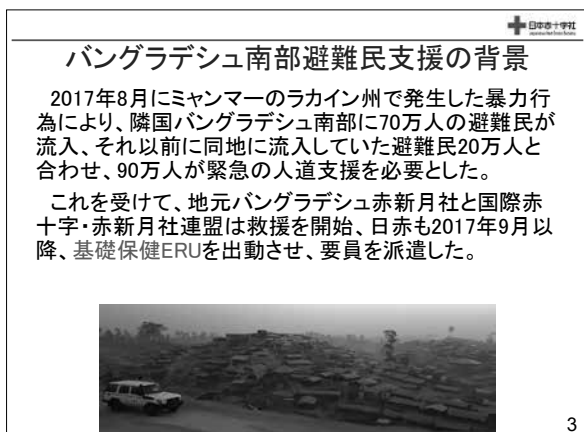
私はバングラデシュ南部で避難民支援に従事しました。

国際赤十字運動全体における支援動向から、日赤

は保健医療支援事業を実施しました。事業にはそれぞれ事業計画、事業目標、達成目標（アウトカム）があります。私は診療所の担当でしたので、診療所における5つのアウトカムの達成を目指して活動しました。アウトカムの中では、具体的に何をいつ実行するのかということを計画しています。この予定と目標に沿って活動を進めていくことが要員の業務になります。そしてその計画した活動ができていくか、ということを定期的に評価します。基本的にはアウトカムに沿って活動が進められているのか、進められていない場合は何が問題となっているのか、改善することは何か、と考えながら現地のスタッフと共に業務を進めていきます。

では、実際に保健要員は診療所で何をしていたのかと言いますと、そもそも診療所では一般診療、慢性疾患、母子保健、創傷処置などを診察していました。その診察は現地スタッフが行い、保健要員はヘルス会議や報告書で得た最新の情報を共有し、患者対応や感染症対策、薬品や物品の管理、消火訓練やサイクロンに備えた災害の対策、各部門や業者との連携、質の高い医療が提供できるようスタッフやボランティアへの教育、訪問者対応、施設自体のメンテナンスなどを行っていました。

アウトカムの中でも、特に力を入れたのはNCD (Non-Communicable Disease: 高血圧・糖尿病・COPD・喘息といった慢性疾患) 患者のフォローアップシステムの強化です。診療所と隣接のコミュニティヘルスが連携して患者さんが確実に継続治療を受けられるような働きかけをしました。現地でのどのような方達と働いていたかと言いますと、日赤からはプロジェクトマネージャーが1名、診療所担当とコミュニティヘルス担当の保健要員がそれぞれ1名、またバングラデシュ赤新月社からのスタッフがいまいました。避難民の方々による現地ボランティアも71名いました。



日本赤十字社			
派遣要員の1日のスケジュール			
時間	フィールド日	時間	オフィス日
6:30頃		起床、朝食	
7:40	宿舎を出発 車庫3-4台に分かれて現地スタッフと共に難民キャンプへ	7:40	フィールドや向かうスタッフを確認し、必要事項を申し送り
9:20頃	難民キャンプにある診療所へ到着	9:00	宿舎を出発
09:30	診療・コミュニティヘルス活動開始	9:00～13:00頃	オフィスへ到着 資料の制作、会議への参加、診療所に必要な薬剤や物品の調達、関係部署との連携等を行う
15:00	診療・活動終了後、一日の出来事を共有するための終礼実施、終了後PMOオフィスへ	13:00頃	昼食
17:00頃	PMOオフィスへ到着 診療所で入力したデータの確認、他要員と情報共有や報告書の作成、PMOにいるスタッフや他部門との業務の進捗状況の確認および調整等を行う	14:00～18:00頃	オフィス業務継続 フィールドから帰ってきたスタッフからの申し送りを聞き、データの確認を行う
18:00頃	オフィス業務終了し宿舎へ以降プライベートタイム		

5

ここまでは赤十字・赤新月社についての説明でしたが、避難民支援に関わる機関は他にも多くあります。ヘルスについてだけでなく、治安維持や食糧支援、建物の建設などそれぞれの機関に役割があります。一例ではありますがスライドにあるようなスケジュールで活動していました。

4 語学学習について

英語についてですが、要員として活動するために、

日赤では TOEIC730点がボーダーになります。私は新人看護師の頃から英会話教室に通い、TOEICも定期的に受験していました。もちろん、働きながら勉強もできるのですが、一度海外で働いてみたいと思い、オーストラリアにワーキングホリデーに行き、1年間働きました。今も続けているのは、通勤時にBBCのラジオを聞いたり、医療英語をオンラインで学習したりしています。医療英語については、病院で外国人患者さんがいらっしゃったときの対応や、医師が記載した記録を読むときに役立っています。他にも好きな音楽の歌詞や映画のセリフを覚えるくらい聞いたり、ゲームを英語でプレイしてみたり、日常的に英語を取り入れつつ楽しみながら学習しています。皆さんも興味があるトピックを英語の記事で読んだり、英語で動画を見たりといったことをしていただくと、おのずと学びになるような楽しい学習方法になるかと思います。

少しでも皆さんのお役に立てればと思い、お話をさせていただきました。いつか国際の舞台上で皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしているので、頑張ってください。